

## 令和4・5年度 第5回小牧市観光振興基本計画改定委員会 会議録

日 時	令和5年12月19日（火）16時00分～17時00分	
場 所	小牧市役所 本庁舎 601会議室	
出席者	<p><b>【委員】</b>（委員長・副委員長を除き、あいうえお順）</p> <p>石川 徹委員長 小牧市 地域活性化営業部 部長</p> <p>池田 洋子副委員長 学校法人同朋学園 名古屋造形大学 特任教授/史跡小牧山整備計画審議会 会長/小牧市文化財保護審議会 会長</p> <p>池本 美和 尾張中央農業協同組合 相談部 ふれあい課 課長</p> <p>鵜飼 公俊 小牧観光ボランティアガイド 代表</p> <p>上野 文男 株式会社フジドリームエアラインズ 営業本部 営業部 担当部長</p> <p>木下 正章 名古屋鉄道株式会社 地域活性化推進本部 地域連携部 / ツーリズム担当課長</p> <p>田中 千奈代 株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレートソリューション部 コミュニケーションプランニング局 / (地域振興担当)</p> <p>松井 真二 名鉄小牧ホテル 営業統括支配人</p> <p>松浦 秀則 一般社団法人小牧市観光協会 会長 あおい交通株式会社 代表取締役社長</p> <p>三輪 洋一郎 小牧商工会議所 中小企業相談所次長</p> <p>八木 裕介 一般社団法人小牧市観光協会 事務局長</p> <p>(WEB参加)</p> <p>小泉 学 株式会社JTBコミュニケーションデザイン コーポレートソリューション部 コミュニケーションプランニング局 局長/ (ツーリズム担当)</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>三品 克二 小牧市 地域活性化営業部 次長</p> <p>村田 吉隆 小牧市 シティプロモーション課 課長</p> <p>長谷川 愛 小牧市 シティプロモーション課 係長</p> <p>兼松 秀伍 小牧市 シティプロモーション課 主査</p> <p>松波 克登史 ランドブレイン株式会社</p> <p>久世 晋一郎 ランドブレイン株式会社</p>	
傍聴者	なし	
配布資料	<p>資料1 (仮称) 小牧市観光振興基本計画 (2024-2033) パブリックコメント素案</p> <p>資料2 前回委員会時の素案の体系</p> <p>資料3 小牧市観光振興基本計画・小牧市観光重点プランの概略 (平成 28～32 年度)</p>	

## 主な内容

### 1 開会

---

#### 【事務局】

定刻となりましたので、会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席を賜り、まことにありがとうございます。本日は全員出席です。会に先立ちまして、本日オンラインでご出席される場合の注意事項について、ご説明させていただきます。事前にお渡しした次第にも記載しましたが、基本的にカメラとミュートは、オンをお願いします。ご意見がある場合は、「手を挙げる」ボタンをクリックしてください。事務局から指名しますので、指名されましたら、ミュートをオフにして発言してください。また、事前にお送りしました資料のうち、資料1(仮称)小牧市観光振興基本計画(2024-2033)パブリックコメント素案について、一部ページを差し替えさせていただきました。差し替えたページは、30ページ、50～52ページ、59～61ページになりますので、ご承知おきください。それでは、第5回小牧市観光振興基本計画改定委員会を開催させていただきます。なお、本日傍聴希望者はありません。初めに、石川委員長よりごあいさつをいただきたいと思います。

#### 【委員長】

本日は、お忙しい中、第5回小牧市観光振興基本計画改定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。前回の委員会では、(仮称)小牧市観光振興基本計画(2024-2028)の素案について、非常に熱心にご議論いただきましてありがとうございました。委員の皆様からご意見をたくさんいただきましたので、事務局にて計画を大幅に修正しました。当初は5年で中間見直しの予定でしたが、皆さんからの熱い議論を受け、出来る限り長い計画にしまして、10年の計画期間で予定することとしました。中身も大幅に変わり、計画を市長に報告したところ、良い計画になったとの意見をいただいています。本日は会場の都合で17時までとはなりますが、熱心なご議論をよろしくをお願いします。

#### 【事務局】

ありがとうございます。では、この後の進行については、石川委員長をお願いします。

---

### 2 議題(1)

---

#### 【委員長】

それでは、2の議題に入ります。議題(1)(仮称)小牧市観光振興基本計画(2024-2033)パブリックコメント素案についてです。事務局より説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、資料1をご覧ください。

先ほど委員長がおっしゃったとおり、計画の期間を2024年から2033年までの10年間としました。まず、2、3ページに目次がありますのでご覧ください。現行の計画は、I部(基本理念、基本方針、基本施策・施策展開)と、II部(観光重点プラン)の2層構造となっていました。今回、前回の委員会のご指摘も踏まえ、1部5章構成としました。また、本市の目指す観光をより明確に示すものとするため、全体の構成を大幅に見直し、10年後の目指す姿として、観光ビジョンとビジョンを実現するため、3つの戦略を設定し、それに基づく8つの施策を展開することとしました。

また、現行計画にありました基本理念から施策展開に至るまでのプロセスをなくし、「夢チャレンジ観光都市こまき」を観光ビジョンとしました。このビジョンは現行計画でテーマとして設定して

---

---

いた、「夢・チャレンジ」始まる観光」を改変し、「観光都市こまき」とすることで、今後「観光都市」としての発展を目指すことを明確にしました。

現行計画で位置付けていた3つのキーワードについては、前回の委員会で三輪委員はじめ皆様からもご指摘もあったとおり、キーワードありきで施策展開されていたことから、全面的に削除し、施策は実態調査から見えてきた課題や旅行者の行動モデルから導き出し、再整理しています。

では、本日は、前回の委員会以降、大きく内容を変更した点に集中して説明します。

4、5 ページをご覧ください。ここでは新たに「こまきの観光ビジョン」10年後に目指す姿として、「夢チャレンジ観光都市こまき」を掲げています。

ここに込めた思いとしては、市民も、事業者も、行政も、小牧に集う皆が一丸となって地域の魅力を磨き、誇りに思い、伝えることで誰もが

こ、ここに訪れたいまち となり、訪れた人をもてなすことで

ま、まんぞくできるまち となり、観光産業の成長に

き、きたいがもてるまち となり、それが更なる地域の魅力となる。この「こ・ま・き」ではじまる、観光まちづくりの好循環が続き、このまちに関わりたい、暮らしたいと思える人が増えていく、この好循環を維持し続けていく状態、それにチャレンジしていくこと、それを本市の目指す姿としています。

前回、木下委員から、シビックプライドの醸成と経済振興の両方をとるのは、現実的には難しく、経済振興に軸足を置いた方がいいとのご指摘を頂いておりましたので、今回のビジョンでは、観光産業の成長を含む観光まちづくりの好循環を維持することで、結果としてシビックプライドの醸成につなげていくこととしました。詳細な説明は割愛しますが、位置付けた、「こ」ここに訪れたいまち、「ま」まんぞくできるまち、「き」きたいがもてるまちの具体的なまちのイメージも併せて記載をしていますのでご確認ください。

次に6、7 ページをご覧ください。ここでは改定版の体系を示しています。まず、戦略として、小牧を訪れる旅行者を時間軸で捉え、3つの戦略「旅マエ・旅ナカ・旅アト」を定めました。戦略を実現し、本市の課題を解決するため、小牧で旅行者にとってもらいたい行動を想定したうえで、8つの施策を設定しました。ここでは、戦略に旅行者の目線を取り入れることで、その行動を意識し、それぞれの段階で旅行者の思いと施策と関連付け、効果を生み出していくことを狙っています。

また、49 ページでは小牧市を訪れる旅行者に取ってもらいたい行動を示し、そこに6つの課題をリンクさせる形で整理しています。では、これら戦略と施策の詳細について見て行きます。

ページが飛びますが、48 ページと併せてご覧ください。旅マエ戦略は、旅行者から旅行先として小牧市を選んでもらうための戦略です。これは、旅行者に小牧に来たらこんなものが食べられる、こんな体験ができる、こんな土産物が買えるといった旅の情報を提供し、旅行先の候補の中から小牧市を選んでもらうための戦略を掲げます。また、その情報は、行政や観光協会からの一方的な情報発信だけでなく、SNS や 口コミ などによる情報発信を含んでいます。

旅ナカ戦略は、小牧市を訪れた来訪者に旅行を満喫してもらい、満足して帰ってもらうための戦略です。これは、小牧では快適に旅行ができ、期待以上のおもてなしに満足した・感動した、もっと長く小牧にいたい、もっといろいろ楽しみたいと実体験を通じて、さらに満足度を高めてもらうため、食や魅力あるまちの環境づくりと商品・体験コンテンツの開発や地域でのおもてなしの強化により、リピートしたい気持ちを高めていくための戦略です。

---

---

旅アト戦略は、帰った後も旅行したことを楽しみ、小牧市のファンとなり、リピーターとなってもらうための戦略です。これは、小牧から帰ったあとも、小牧での体験を思い出し、友達に話したり、お薦めしたり、お土産を楽しんだり、小牧の旅行で得た感動の余韻を味わい、小牧の魅力を口コミとして発信してもらう。また、来訪者への定期的な情報提供などを行うことで、小牧のファンとなり、これによりリピート率が高まり、さらに横展開、つまり人から人へ小牧の魅力が広まっていくことを狙った戦略です。これらは49ページに示すような、旅行者の行動モデルにおいて、要所で訴求がなされることで、小牧ファンを効果的に増やしていくことが期待されます。

それでは次に、50ページ以降をご覧ください。旅マエ、旅ナカ、旅アトそれぞれの戦略を有効なものとし、ビジョンを達成するための8つの施策について述べています。前回の委員会においては、昨年度実施した実態調査から得られた6つの課題に対応する形で6つの戦略を設定していました。今回は、ビジョンや戦略を大きく見直したことから、戦略を実現し、本市の課題を解決するため、小牧で旅行者にとってもらいたい行動を想定したうえで、8つの施策として、再構築しました。

本日は特に、新たに設定した施策について重点的に説明します。新たに設定した施策としては、施策1「観光地ブランディング」、施策3「観光マーケティングの強化」、施策8「観光推進体制の強化」の3項目があります。では、順に説明していきます。

51ページをご覧ください。施策1 観光地ブランディングです。これは観光目的地として小牧が選ばれるために、訴求力のある資源に価値や小牧独自のストーリーを付加して強い印象を持たせるための施策です。施策の展開方向として2つ、「小牧山のコンセプト設定」と「資源の訴求力の向上」を位置づけています。

「小牧山のコンセプト設定」は、小牧山が持つ、「織田信長の石垣」と「徳川家康の本陣」の2つの価値をコンセプトにして分かりやすく言語化して発信するものです。またこのコンセプトは、全ての施策へ波及させることが必要です。

2つめの展開方向「資源の訴求力の向上」は、複数の資源を一つのストーリーで繋いで魅力を増幅し、小牧へ行ってみたいという訴求力を高めることを指します。具体例として、神明社の連理木・田縣神社・間々乳観音・こども未来館を「子宝」というストーリーで繋ぎ施策に展開するといったことがあります。

次に、52ページ、施策2、情報発信力の強化。これは、前回の委員会でお示した計画案でも「戦略2 情報発信力の強化」として記載しており、一部、事業例として「観光協会によるSNS情報発信の強化」を追加していますが、大きな変更はありませんので、説明は割愛します。

次に、54ページ、施策3、観光マーケティングの強化。これは、新たに設定した戦略です。ここでは観光マーケティング、すなわち、様々な客観的データや調査結果などに基づき、訪問者のトレンドやニーズを分析し、そこから得た知見を活かして観光としての活性化に役立てていく施策を位置づけています。

施策の展開方向としては、「観光データの収集・分析・活用」を位置づけています。

具体的には、昨年度の実態調査で実施したような、ビッグデータの活用や、SNS・インターネットモニターの活用、分析データの活用による観光プログラムの造成などが挙げられます。特に現在は、IoTの発達によりこれまでには得られなかったようなデータが容易に入手できる時代になっていますので、それだけにそうしたものをタイムリーに活用して施策に展開していくことは、重要と言えます。

---

---

また一方で、従来から継続して行ってきたアンケート調査についても、来訪者の生の声を知るといふ意味では貴重な機会であるため、これを定期的に行い、結果を比較したりすることで、継続的かつ長期的なニーズ把握に役立てていきます。

次に、55 ページ、施策 4、広域連携の強化。これは、前回の委員会でお示した計画案でも「戦略 3 広域連携の強化」として記載しており、施策展開名や事業例など一部変更していますが、大きな変更はありませんので、説明は割愛します。

次に、56 ページ、施策 5、おもてなし人材育成強化。これは、前回の委員会でお示した計画案でも「戦略 5 おもてなし人材育成強化」として記載していますが、施策展開方向として、2 つ追加しています。追加した施策の展開方向は、57 ページの 2 つ、「b 食や文化など様々な地域の魅力を伝える人材の確保」「c 市民の観光への意識改革」です。

「食や文化など様々な地域の魅力を伝える人材の確保」は、観光ガイドボランティア・観光サポーター以外で、地域の持つ資源の魅力を外部へ発信できる人材を育成・確保するもので、具体的な事業例として地域の魅力を伝える人材の発掘・協力体制の構築あげています。

「市民の観光への意識改革」は、本市の観光に対して関心を持つ市民を増やし、各々の思うかたちで観光に参画してもらい、本市全体でのおもてなしを強化し、底上げを図るもので、具体的な事業例として、「観光に対する市民意識の向上を図る講座等の開催及び市民への情報発信」をあげています。

次に、58 ページ、施策 6、地域資源の育成・魅力向上。これは、実態調査の結果、ポテンシャルが高いことがわかった地域資源を育成していくとともに、小牧でしか体験できない・味わえない新たな地域資源を発掘し、市民に浸透することによって、今後の戦略的な事業展開ができるよう、市内での普及啓発を行います。展開方向として、「地域資源の発掘と観光コンテンツ化」、「小牧でしか体験できないプログラムや小牧でしか味わえない商品の開発」、「市内における地域資源の普及啓発」を挙げています。

特に「小牧でしか体験できないプログラムや小牧でしか味わえない商品の開発」の事業例としては、「空自空揚げ」に見られるような産業間コラボによる商品開発、魅力的な「グルメ」、「食」、「みやげもの」の提供、小牧にしかない体験プログラムの提供、小牧山を軸とした観光プログラムの造成が挙げられます。

これら施策については、前回、松井委員からご指摘いただいた、自衛隊の基地のあるまち、自衛隊のから揚げが好評であるといった意見や、池本委員からご指摘いただいた、いろいろな企業と協力して見学や体験ができるとよいといった、ご意見を参考に施策展開を位置づけています。

次に、60 ページ、施策 7、観光スポットとしての環境強化。ここでは、「飲食店・土産物店等の拡充」、「フォトスポットの創出・発掘」、「交通手段の利便性向上」、「まち歩きが楽しめる景観の整備・保存」、「観光案内サインなどの拡充・多言語対応」の 5 項目を展開方向として挙げており、本市に来訪した際に飲食がしやすい機会の創出や、飲食店・土産物店等の出店等を増やす取り組み、また、本市に来たくなるとともに、滞在時間を増やせるよう、SNS で投稿したくなるようなフォトスポットの創出・発掘などを事業例として追加しています。

次に、63 ページ、施策 8 観光推進体制の強化です。これは、前回の委員会でお示した計画案で「戦略 1 事業者支援（育成）強化」として記載していた内容を拡充し、「観光推進体制の強化」として再構築しています。この戦略は、市民・市民団体、観光協会、事業者、行政が連携し推進する施策を展開するものです。小牧市の観光を推進するためのプレイヤーとして、市民・市民団体、観

---

---

光協会、事業者、行政といった主体が考えられますが、それぞれが観光振興をこれまで以上に關心をもち、意識した取り組みを進めるとともに、主体間が連携することによりシナジー効果を生み出し、観光振興施策をより強力に展開できる体制を整えることが重要と考えます。そこで、展開方向として3つ「観光協会の事業拡大」と、「事業者の観光産業への参画促進・誘導と支援」、「事業者・観光協会・行政とのネットワークの強化」を位置づけました。「観光協会の事業拡大」については、従来から行ってきた観光案内やボランティアガイドの事務局といった、直接的に来訪者に接して行うサービスに加え、インバウンドの回復を見据えた外国人観光客への対応や、マーケティングの強化といったことがプラスαの事業例として想定されます。特に観光協会がこれまで以上に戦略的な視点を持ち、市場に対して積極的にしかけていくことは重要な取り組みであると考えられます。「事業者の支援」に関しては、前回の委員会でお示しした計画案で「戦略1 事業者支援（育成）強化」として記載しておりましたが、この度の修正で施策8の中にも含める形とさせていただきました。「事業者・観光協会・行政とのネットワークの強化」については、立場を超えた主体間連携が重要であることから、所属の違いはもちろんのこと、市内の組織だけでなく、近隣の自治体や関連団体とも連携するなどして、より広域な地域としてのネットワークを強化することを考えていきます。

主に、変更したところを中心に説明させていただきました。資料1の説明は以上です。

**【委員長】**

説明ありがとうございました。事務局から説明がありましたが、前回から大幅に修正しましたので、意見がありましたらお願いいたします。

**【三輪委員】**

前回の委員会の際に、今までの内容を否定するようなこととなり、(計画を)書き直してもらったりして事務局にはお手間取らせました。作り直していただきありがとうございました。おかげで、目的、ビジョンがわかりやすくなったかと思います。計画期間として10年の体系で示されていますが、10年間でバランスよく一遍に、ということではなく、順番付けしたうえで、この10年間でどう具体化させるかが重要だと思います。6、7ページの旅ナカ・旅アトのモデルに関しても、変わってくると思います。民間の投資、参入、参画がないとこの辺が埋まらない。どうしたら民間事業者が参入してくれるか。2年、3年先の環境や、5年後、10年後の未来など、小牧図書館の跡地の整備や、駅周辺の整備など見えるものがあるからこそ民間の投資を呼び込めるのではないかと思います。ビジョンだけあっても、民間事業者に利益が出ない、儲からないでは参入してこない。参入してもらってもそれを持続させる必要があります。1年、2年で計画と違うとなれば、民間業者は撤退していく。それでは振出しに戻ってしまうので10年の計画をどううまく進めるのか。環境整備など具体的な何かを示すことができるのかが気になるところです。

**【委員長】**

62ページをみてもらうと、事業例で「まち歩きが楽しめる景観の保全・整備」があります。駅から小牧山までの通りや小牧山周辺を中心に、憩いの場を創出するとともにまち歩きを楽しめる環境を創出するという一方で、図書館の跡地活用も含まれています。10年の計画期間内で観光に関するトレンドの変化などがあれば、フレキシブルに見直しや修正などの対応をしていきたいと思っています。

**【三輪委員】**

行政のプロセスもあるし、具体的なことは、書けないということですよ。

**【委員長】**

---

おっしゃる通りです。大枠を示していく計画なのでよろしくお願いします。続けてご意見をお願いします。

**【八木委員】**

48 ページの戦略ですが、今までなんとなくこれが必要だというものが出ていましたが、このように、時系列で、旅マエ・旅ナカ・旅アトで分けて考えるのは良いと思います。協会としては、旅マエ戦略は、事業者だけに頼るだけではなく、観光協会がやらないといけないと思っています。ホームページや SNS の活用のほか、旅行会社への商談会なども利用し「来てもらう」というところを頑張っていきたいです。また、51 ページの観光地ブランディングも、具体的なコンセプトを提示してもらったので、例えば、小牧山では、織田信長の石垣と徳川家康の本陣、両方進めていくということがわかったので、ポップなども作りやすくなりました。他も具体的に落とし込んであるので、やりやすくなってよかったです。

**【委員長】**

貴重なご意見ありがとうございます。ほかにご意見はありますか。せっかくオンラインでご参加いただいていますので、小泉委員、お願いします。

**【小泉委員】**

内容が非常にわかりやすく整理されているのでとても良いと思います。具体的な施策についてはこれからだと思います。環境も変わるので時代に合わせて考えていくと思いますが、方向性はこれで進めていきながら、施策面ではより柔軟に議論をしていければよいと思います。

**【委員長】**

ありがとうございます。では、松浦委員、ご意見お願いします。

**【松浦委員】**

10 年(計画)となると、うちの事業に関連してきますが、足をつくらないと小牧山、田縣神社に行っただけということで終わってしまいます。正直、小牧巡回バスは乗りにくい。市内をグルグルまわれるような乗合タクシーのようなシステムをつくってはどうか。アプリで呼んで、一回の乗車を安くする。そのような「足づくり」が必要だと思います。「足づくり」を交通事業者だけでやるのは難しいので、市が協力して事業者と一緒にやるとよいと思います。タクシーは二次交通としての利便性もありますが、観光にも利用できます。乗合タクシーは、昔難しかったのですが、AI を利用した新しい取り組みが生まれており、福島県磐梯町でその実例があります。タクシーだと料金が高くなるデメリットを、行政が間に入ることによってできるのではないかと。計画に交通網の創設というような項目を入れてもらって、例えば、巡回バスを、幹や枝に例えるなら、その間を、葉っぱのようなイメージで、乗合タクシーが埋めると良いシステムとなるのではないのでしょうか。料金をなるべく安く設定することも大切です。100 円、200 円では難しいかもしれませんが、300 円程度でどうにかならないだろうかと思います。磐梯町は、70 歳以上や障がい者の町民は、100 円から利用でき、観光客は割高になっています。そのよし悪しはわかりませんが、そういったシステムを作れないのでしょうか。現状のタクシーでは料金が高く、小牧山へ行って田縣神社へ行ったら、2000 円くらいはかかります。お客は高いと乗りません。(乗合タクシーの細かなオペレーションは、)人の頭ではなかなかできず、これまでは難しかったのですが、AI ならできます。10 年の計画だからこそ、こうした交通施策が組めると思います。市に協力をしてもらって取り組むきっかけを記載してほしいです。

**【委員長】**

---

ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

**【田中委員】**

わかりやすい資料をありがとうございます。一般の方も理解しやすいと思います。市民の皆さんは、住民でもあり観光客でもあるかと思いますが、市民自身が、魅力を発信する教育や、そこまでいなくても、市民サポーターのような取り組み予定はありますか。また、交通の話聞いて思ったのですが、東京では、レンタルキックボードをよく見かけるようになりました。サラリーマンでもリュックを背負ってスーツ姿で利用しています。そこで、レンタサイクルもあると思いますが、「小牧の籠は、レンタサイクルじゃ！」というような謳い文句などと共に取り組むなどのご予定はありますか。

**【事務局】**

先程の三輪委員の意見も踏まえ回答させていただきます。これまでもそうでしたが、年次計画は観光白書で定めていきたいと思っています。年次なので、その時のトレンドに応じて、先ほど出たキックボードや市民サポートなども、例えば「情報発信したら歴史館に無料で入れます」などいろいろ計画して盛り込んでいきたいと考えています。また、三輪委員、田中委員の話も踏まえ、資料の68ページ、計画期間における進捗管理のところで、観光白書を取りまとめると記載があります。そこに追加で、年次計画については、小牧市観光白書のなかで進めていくと記載してもよいかと思っています。

**【委員長】**

ありがとうございます。先程の市民サポーター、観光サポーターについては、おもてなし人材育成強化として、56ページに位置付けているので、読み解いていただけたらと思います。時間も少なくなってきましたが、松井委員、お願いします。

**【松井委員】**

名鉄小牧ホテルの松井です。最初のこ、ここに訪れたいまち、まずは、興味をもってもらうことからのスタートで、こまきの「こ」の字の部分の皆さんで考えて、ブラッシュアップしていければと思います。

**【委員長】**

最後に、上野委員、お願いしていいですか。

**【上野委員】**

事務局の皆さんには、わかりやすく整理してもらい、ありがとうございます。旅マエ・旅ナカ・旅アトのタイムスケジュールに沿って整理され、わかりやすくなりました。1つだけ。10年計画という長いスパンですが、例えば企業だと5年計画を作り、毎年ローリングで見直しをしますが、そういう予定はありますか。

**【委員長】**

基本計画そのものの見直しはありませんが、(観光白書において)見直しはします。

**【事務局】**

毎年、観光白書を作り、そのなかで結果等を検証して、次年度に反映させる想定をしています。

**【上野委員】**

計画なので、通常、「タイムスパンがあって、いつまでに何をやる」というものがあると思います。縦軸に項目、横軸にタイムラインがあるイメージですが、そのようなものを作るイメージですか。

**【事務局】**



---

概ねとなりますが、10年間の計画を白書でつくるつもりです。毎年見直ししながら10年やっていきたいと思っています。

**【上野委員】**

以上です。ありがとうございました。

**【池本委員】**

皆さんと同じで、見やすくなったというのが第一印象です。前回の会議から時間のない中、ここまで作るのには、相当大変だったのではないかと感じます。大枠の10年間というロングスパンを聞いて、当初は、「えっ」と思いましたが、細かなところは、単年度で見直せるということなので、修正がきくという点では、大変よいし、わかりやすいと思います。あとは、駅から小牧山のシンボル等への動線をどうするか、どうPRしていくか、先ほど話に上がった図書館の跡地や中町のメインストリートはどうしていくか、駅からどう行くかが重要だと思います。クリスマスイルミネーションは市外の方にも周知されているので、1年間通じてやると、売りになるのではないかとと思うので、こうしたよいところをのばしていけばよいのではないかと考えています。

**【委員長】**

鵜飼委員はどうですか。

**【鵜飼委員】**

レンタサイクルはやってほしいと思います。前はあったので、復活するとまち歩きがやりやすくなると思います。

**【木下委員】**

行政と観光協会が一緒になって、これだけたくさんの施策をやっていくのは大変だと思います。工程表の指摘がありましたが、何を最初にやるのか優先順位をつけて、進捗を確認してやっていくべきと感じました。先程、二次交通もありましたが、小牧山までの動線+αで、滞在時間を増やすことで経済効果が生まれやすいので、回遊性にもチャレンジするのもいいと思いました。旅マエ・旅ナカそれぞれ難しいですが、小牧が旅の目的地に至っていないなかで、旅マエをどう進めていくのか。他の自治体と連携して施策を進めていければいいのではと思いました。

**【副委員長】**

この新しい資料は見やすくなりましたが、10年間で、どこまでやれば、目標達成と捉えていいのか。計画に書かれていることが達成されれば完了なのか、それとも、目標は変わっていくのか、もう少しはつきりさせてほしいと思います。観光地ブランディングのコンセプトの設定と資源の訴求力の向上で、子宝というキーワードが出てきましたが、この新しいキーワードをどう発展させるのか、今までになかったキーワードなので難しいと思いました。小牧山は年配層がターゲットであるのに対し、おそらく子宝は若い層がターゲット。例えば、その若い層の人がここにきて子宝に恵まれ、お礼参りに来るとなると、子連れで来るので、こども未来館などに、内でも外でも遊べるスペースがあるといいと思いました。そうすれば滞在時間が長くなるのではないかと考えます。また、車で来る人はいいですが、小牧駅まで来て、メナード美術館までは歩けるけど、小牧山まではちょっときつい。だから、先ほどの乗合タクシーのようなものができるといいと思います。レンタサイクルやキックボードは、年配者ではきついので、乗合タクシーが実現するといいと思います。その際、京都など観光地にはバスや地下鉄などの一日乗車券があるように、毎回の支払いではなく、小牧に来たら、その券で一日乗り放題、もしくは何回限定というような仕組みになるといいのではないのでしょうか。ICカードのようなものでタクシーに乗れるとか新しい方法があってもいいと思いま

---

す。高齢者にはアプリの使用は難しいので、タクシーステーションをつかって、そこにQRコードがあり、それを読み込むシステムにするなど高齢者に優しい配慮が好ましいと思います。やはり、足が大切。足をいかに用意するかが重要だと思います。

**【委員長】**

貴重なご意見ありがとうございました。また、沢山の、熱心な思いを含めたご意見、ご提案をありがとうございました。この辺のとりまとめは事務局に一任でよろしいでしょうか。もう少し頑張っって良い計画にしたいと思います。それでは、その他を事務局からお伝えします。

**【事務局】**

次回、第6回の委員会につきましては、3月上旬の開催を予定しております。今月中に日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひします。なお、パブリックコメントの結果によっては、委員会を開催しない可能性もありますので、ご承知いただくとともに、その場合は、別途ご連絡させていただきますので、よろしくお願ひします。

なお、今後の予定につきましては、広報こまき1月号や市ホームページにて周知のうえ、2月1日から3月1日までパブリックコメントを行う予定です。パブリックコメント終了後、提出された意見等の概要と意見に対する市の考え方をまとめまして、3月上旬の第6回委員会にて委員の皆様からご意見をいただく予定です。その後、計画内容の最終確認を行いまして、3月末に計画の完成・公表で予定しております。以上です。

**【委員長】**

ありがとうございました。以上で、全て終了しましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

**【事務局】**

皆さま、お疲れさまでした。大変貴重なご意見をお聞かせいただきありがとうございました。これをもって、計画案を進めていきたいと思ひます。以上で、第5回小牧市観光振興基本計画改定委員会を終了とさせていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。お気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。

---

以上